

2013年1月11日

東京電力株式会社

取締役会長 下河邊 和彦様

代表執行役社長 廣瀬 直己様

原発いらない福島的女たち 有志

## 女たちの要望書

2011年3月11日、東日本大震災に端を発する東京電力福島第一原子力発電所の過酷事故から、1年10カ月が経とうとしています。

本年1月「福島復興本社」をJヴィレッジに開設し、その出先機関として福島・郡山・いわき・南相馬・会津若松にも事務所を構え、賠償支払いや除染業務を加速させるとのこと。また社内には「原子力改革特別タスクフォース」、諮問機関「原子力改革監視委員会」が設置されて、内外の専門家による原子力改革が行われているという話も、報道等を通じて耳にしています。これらの動きは「過酷事故を引き起こした原因は自らにある」と認め、その反省と懺悔の上に立った事業であると理解したいところなのですが、改革の基本方針に「世界最高水準の安全と技術を目指し原子力改革を推進」が掲げられていては、「福島はこの悲惨な犠牲から、何ひとつ学ばなかったのではないだろうか」と疑わざるを得ませんし、「福島から逃げない」「福島に寄り添う」とおっしゃる廣瀬社長の言葉も、そのまま信じる事ができません。

「世界最高水準の安全と技術」は、原子力の推進ではなく、廃炉と収束のために使われるべきものです。日常を奪われ、心に深い傷を負い、将来への見通しも立たず、健康不安を抱えて暮らしている福島県民が、怒りと、後悔と、祈りの中から、「県内原発の全基廃炉」を要求していることに、誠意を持って応えてください。「福島第一の5・6号機や福島第二の再稼働があるのではないか」という、許すことのできない噂も聞こえてきています。一刻も早く廃炉を決定して、わたしたちを安心させてください。さらに、南海トラフ巨大地震の可能性が指摘されている日本列島に、原発はもはや時限爆弾でしかありません。取り返しのつかない過酷事故を二度と繰り返さないために、自ら「原発ゼロ」を達成していくことを、東京電力の責任として明言してください。

わたしたちは、いのちと未来を何よりも尊ぶ者として、以下の通り貴社に要望します。

### 【要望内容】

1. 原発事故に起因して生じた損害に対し正当な賠償を行うこと。
2. 放射能軽減策（避難、除染等）に係る全費用を補償すること。
3. 事故の収束・廃炉作業に安全の確保と正当な対価が支払われるよう努めること。
4. 所有する原子力発電所の全基廃炉を早急に決定すること。
5. 「原子力維持・原子力推進」の方針を速やかに撤回すること。

以上

必ずご回答ください。

要望書と共に、「原発いらない福島的女たち」のブログ上で公表させていただきます。

E-mail アドレス onna100nin@yahoo.co.jp

ブログアドレス <http://onna100nin.seesaa.net/>